

令和5月7月31日

羽生市議会議長 様

会 派 名 瑞藤会

代表者氏名 田口 さとる



行政視察報告書

このことについて、別紙のとおり実施したので報告します。

瑞藤会 視察研修 報告書

令和5年7月19日（水）於羽生市消防本部・会議室

午前9時30分～11時30分

瑞藤会 田口会長・丑久保

テーマ 消防行政の現状について

参加者 田口会長 丑久保議員

特別参加 小野田議員・川田議員・小林議員

説明者 山崎消防長・山崎総務課長・平井予防課長・長谷川警防課長・宇野木署長

はじめに 山崎消防長より 歓迎のあいさつ

田口会長から 代表してあいさつ

説 明

レジュメに沿って、消防長・各課長が説明

1. 消防行政（職員配置）について

条例では、職員定数は79名ではあるが、現在77名体制で臨んでいる。すでに職員募集しており、2名の不足職員数については、今後の登用から、令和6年度より消防署へ配置され、条例に則った職員配置数になるとの説明でした。

2. 出動件数について

救急車の出動件数は、令和4年は1日8.9件であったが、令和5年はすでに前年より7.2%増加しており、急病事案が多いとの説明でした。また、コロナが2類から5類に転じましたが、今も、65歳以上の方が6割利用している状況との説明でした。

3. 今後の問題点として

- 1) 地震への対応や、ドローンを使用した場面が増加する傾向から、更なる、職員の資質の向上が必要。
- 2) 庁舎の老朽化（施設内の設備）
- 3) 大型化している、風水害対策
- 4) 職員の心の病気及びハラスメント対策
- 5) 若い職員の離職率を、どう食い止めるか

感 想

消防署執行部の皆さんが説明をして下さり、消防行政の現状を正しく認識することができました。加えて、本市は、高齢化率の高い自治体でもあり、救急車の出動回数の多さに驚きました。

この先も、残暑厳しいと予想されており、救急車の出動回数が増加すると考えられます。消防署員の負担増に繋がりがねないわけで、消防署員の不足が、一刻も早く充足されることを願っています。

建物の前で、ドローンの訓練状況、多目的消防ポンプ自動車の操縦を垣間見ました。自然災害が頻発する昨今、速やかなる対応、未然防止、最小限に処理するなどの対策を講じるには、日頃の備え、日頃の訓練の必要性を確認できました。

文責 丑久保恒行